

どんなときでも こんなときこそ「顔の見える関係」から「手をつなぎ合える関係」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たより

令和2年11月27日発行

つながろう 話そう
ウェブ de 研究会

第46回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時：令和2年11月12日（木）18:30～20:30

◆参加者：89名（医療関係31名、福祉関係17名、行政・その他41名）



地域でのひきこもり支援を考える

～目からウロコのひきこもり支援～



☆今回の
ねらい

- ◎ひきこもりの現状、様々な立場からの支援について理解を深めましょう。
- ◎情報を共有し、多職種間のつながりをつくっていきましょう。



今回の研究会では、様々な立場から、たくさんの情報提供をしていただきました。まさに「目からウロコ」な話題が盛りだくさんでした。その一部をご報告します。

【情報提供】

1. 『ひきこもりの現状』

湖東健康福祉事務所 矢倉美由佳さん

◇ひきこもりを含む「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」について（厚生労働省の資料を参考に）

■ひきこもりの定義

- ・社会的参加（就学や就労、家庭外での交遊等）を回避
- ・原則的に6か月以上、概ね家庭に留まり続ける状態
＜厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」＞

■ひきこもり推計値

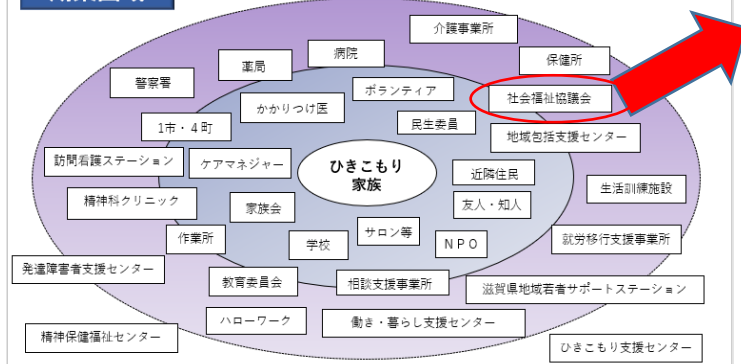
- ・滋賀県は12,646人、湖東圏域で1,406人のひきこもりの人がいると推計されている（15歳以上64歳以下、広義のひきこもりの推計値）
＜推計は令和元年4月1日時点の県推計人口から算出＞

■ひきこもり支援

- ・地域で連携して支援できるネットワーク
- ・ひきこもり当事者家族が孤立感をもたない支援
就労だけがゴールではなく、生活の質をあげる支援
- ☆保健所では、「ひきこもり相談（保健師・医師・心理士）」や「ひきこもり家族交流会」を実施

湖東圏域のひきこもり支援に携わる機関のマップ

湖東圏域



2. 『地域でのひきこもり支援』

彦根市社会福祉協議会 森 恵生さん

「ひきこもり者と家族が孤立しない
地域支援体制づくり事業計画」

1. 事業の目標

ひきこもり者や家族が抱える悩みや課題を解決していくために、
☆市行政や保健所、医療機関、地域、企業等の様々な機関・団体がそれぞれの強みを活かし合いながら連携する「ひきこもり支援ネットワーク」を構築するとともに、
☆ひきこもりに対する理解や先進的な取組にかかる学びを深める機会として研修会の開催や、
☆当事者・家族が気軽に不安を打ち明けられる居場所づくり等を行い、
彦根市域における「ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり」を推進していく。

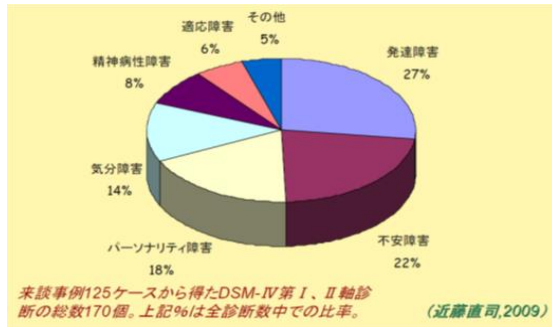
2. 事業実施内容

- (1)「ひきこもり支援ネットワーク」構築のための関係者会議の開催
 - ・いまある機能等の資源の見える化
 - ・現状における課題&今後に向けた方向性
＝「何が必要か」「そのためにどう取り組むとよいか」
- (2)ひきこもり者に対する粘り強い寄り添い支援の充実
- (3)ひきこもり当事者・家族が安心して悩みを打ち明けられる場づくり
- (4)ひきこもりに関する学びを深める研修会の実施

3. 『医学的側面から見るひきこもり』

南彦根クリニック 上ノ山一寛さん

ひきこもり相談事例の精神医学的診断 (精神保健福祉センター)



ひきこもり支援の今後

- ◆何らかの精神疾患を抱えているケースが多い。まずは精神疾患の有無をしっかりと見極める必要がある。しかし、様々な精神疾患があり、一筋縄でいかないケースが多い。
⇒丁寧なアセスメントが必要。
- ◆医療にしかできないこともあるが、医療だけでできることも少ない。「医療に繋がればなんとかなる」というのは誤解。
- ◆地域のネットワークで受け止めていく必要がある。
⇒各機関がそれぞれの専門性を活かしながら、連携していき関係づくりを。「ひきこもり支援ネットワーク」(事務局; 社協)

4. 『相談支援の視点』

福祉マインドと主体者を考える

彦愛犬地域障害者生活支援センターステップアップ21 木村和弘さん

1.福祉マインドを知る 対人支援の考え方

①医学モデル(Safety first)

リスクを取り除くため、課題を解決すること

「困っていることはないかなあ？」

「悪いところはないかなあ？」

これが福祉マインド

②生活モデル(Risk taking)

リスクを負いながらも自分がやりたいことをすること。

「したいことはないかなあ？」「良いことはないかなあ？」

☆生活モデルがマイナスの部分支援する時は、目的なく、マイナス部分を支援しない。☆目的がある時、目的にそった目標を達成する為に必要な部分のみ支援を行う。
☆プラスの目的、目標があることがマイナスを支援する条件である。

2.課題の主体を考える

- ・課題の主体者とは、その課題をクリアにすることでメリットがある人
- ・福祉マインドは、悪いところを支援するのではなく、やりたいこと、したいことを支援する。
- ・誰の課題? 課題の代行をしてない? させてない?
- ・出来ることは「伝えること」

〔話題提供〕

『何年もの無言から語り始めた A さんへの支援』

豊郷病院訪問看護ステーションレインボウひこね 山田里美さん

- *ひきこもりが長期化し、親が高齢となり生活が立ち行かなくなるケースは社会問題となっています。
- *今回のケース:一時期は社会のリアリティから全て拒絶した生活でしたが、次第に新聞、テレビに興味を示し、訪問者を受け入れ、語り始めました。

～支援経過から～

《精神訪問看護の特徴》

- 精神障がいを持つ人自身がしたいこと、夢を実現できるように必要なサポートを提供すること
- その人らしく希望を持って生活出来ること(リカバリー)を目標として関わる
- 地域の保健師や精神保健福祉士など、福祉制度の活用について他職種と連携と協働し、ネットワークを築いていく

■訪問看護で提供したケア①

- 過去の挫折経験から自分の世界にひきこもることで、心の安定を得ている状態であることを理解して関わる。
- 「手助けしたい」というメッセージを送り続け、看護師は安心して話せる存在であることを伝え関係を作る(どう受け入れてもらえるかが大切)。
- Aさんが受容される体験の中でその人らしく生活できる(リカバリー)ことへつながる思いが表出出来るよう対話する。

■訪問看護で提供したケア②家族支援

- 親が語る家族のヒストリーを傾聴し、全てのことを親が肯定的に受け止めることが出来るよう関わる。
- 家族のストレス軽減(家族からの情報収集、Aさんの行動の意味を伝え、家族も状況に応じ折り合いをつけられるよう支援)。
- 膠着した家族関係に風穴を開ける(定期的に訪問し家族の風通しを行う)。
- 金銭問題への支援(社協からの情報提供や精神保健福祉士への相談)。

■訪問看護で提供したケア③

- 医療や行政・福祉と連携し、社会資源とつなげていく。(訪問診療の同行、Aさんの緊張を和らげ、継続した診療が出来るよう協働する)
- 往診前の医療連携(障害福祉課・社協と同行訪問:Aさんの緊張を和らげ、支援者を増やすために協働していく)。
- インフォーマルな資源とつなぐ(友人と連携:親の知らないAさんの情報を収集する)。



Aさんが自力で歩きだすには、これからも長い時間を要すると感じるが、私達訪問看護師は常に傍らで一緒に歩む、伴走者としてこれからも家族を含めて関わっていきたい(^^)／

全体会・質疑応答



今回は、Google の質問フォームを利用して、質問を受け付けながら、その中から、情報提供者、話題提供者に回答を頂く形で全体会を進行をしていただきました。その一部をご報告します。

☆進行:吉川知則さん

彦愛犬地域障害者生活支援センター ステップアップ 21

(湖東健康福祉事務所に質問)

Q.『湖東健康福祉事務所で行われている家族交流会の様子について教えてください。』

A.家族交流会では、それぞれの状況を話したり、家族自身が健康でリラックスできるような企画をしたこともあります。また、家族が聞きたいことに対し、研修の機会を設けたこともありました。このような家族会があることを機会がありましたらご紹介ください。

Q.『ご家族(親)は、どこに相談に行けばよいですか？また、自宅への訪問はどのような場合に可能でしょうか？』

A.保健所は相談機関の一つですが、関わりのある地域包括支援センターやケアマネジャーさんに相談していただいてもよいと思います。市町や社協等にも相談していただけます。

自宅へは必ずしも訪問しているわけではなく、まずはお話を聞いて、今訪問してよいタイミングかどうか、それとも、まず家族に関わらせていただく方が良いのか等、丁寧にアセスメントして、その中で必要な方には訪問しているという状況です。

(レインボウひこねに質問)

Q.『どのように関係者が増えていったのかを、もう少し詳しく教えてください。』

A.親の代替受診が難しくなったので、障害福祉課の方に相談し、往診が必要ということで、一緒に医療機関に相談に行き、往診医とつながることができました。また、金銭問題については、訪問看護師では詳しくわからなかったため、社協に相談し、サポートしていただけるよう依頼しました。精神保健福祉士さんについては、訪問看護師が本人と親とを同時に支援していくのは難しい面もあったので、役割分担をするために家族支援に関わってもらえるようにしました。

Q.『Aさんのゴールについてどのように思いますか？』

A.本人主体に考えると、ご本人は「今の生活を変えたくない」との思いがあり、今は心の安定かと思います。外に出ることがゴールとは思っていませんが、いろいろな方とつながる中で、ご本人は主治医やその他の方ともよく話されるようになってきて、お話が好きなのかなと感じます。これらのつながりが何かのきっかけ(したいことが見つかるなど)になるのではないかと思います。また、本人だけでなく家族も一緒に、支援のゴールを考えていきたいと思っています。

(彦根市社会福祉協議会に質問)

Q.『引きこもり支援ネットワーク会議について、これだけ多くの機関が連携することの難しさやご苦労は？ファシリテーターの人材育成は？彦根市福祉まるごと相談体制を実現していくために大切だと思われることは何ですか？』

A.ひきこもり支援には普段から繋がりのある機関がネットワークを作るだけではなく、もっと広く様々な機関が関わらないといけないということで多くの機関が連携するイメージ図ができました。

ひきこもりの課題は、どこかが頑張れば解決できるということではなく、それぞれが少しずつ力を出し合って取り組むことが必要です。社協は事務局を担っていますがコーディネートについては社協だけでやっていけるものではなく、例えば、行政の中にもいくつもの関係する課があって、横のつながりをコーディネートする人が必要だと思いますし、コーディネートするのはひきこもり支援に関するコアなメンバーのいくつかが担っていく必要があると思います。人を育てるといふより、組織として形作っていくことをこの先出来たらいいと思います。

少しずつ力を出し合い、それぞれが手を伸ばし つなぎあえるように・・・

ひきこもりの支援は、単一の機関だけでどうかなるものではなく、それぞれができることをちょっとずつ協力し合うようにする。そして、つながる時も、誰かがつなげてくれるのではなく、それぞれがちょっとずつ自分からつながるように働きかけていくことが必要ではないでしょうか。



このほかにも、様々なご質問いただき、発表者の皆様にご回答いただきました。ありがとうございました。



1. 事例報告について感じたこと、印象に残ったことがあればお聞かせください

- ・誰の課題なのか分析する事や待つ姿勢が大事と知りました。なかなか家族では出来ないなと思いました。(介護支援専門員)
- ・引きこもりのきっかけは色々だが、元々障害や疾患が潜んでいた可能性がある、本人のみが生きづらいのではなく、その取り巻く環境も実は問題を抱えており、単純ではないことがわかりました。根気よく話しかけたり傾聴したりと何年も続けていくには支援者もスタミナが必要ですね。関わりを続けてくださってありがとうございます。(介護支援専門員)
- ・引きこもり支援は長期間の支援が必要で根気がいるんだと感じました。支援者が少しずつ支えていけたらと思いました。(生活相談員)
- ・引きこもりの支援は、難しいとは思っていましたが、今回の事例のように、時間をかけて支援することで、少しずつ外に出ていくことができるということを学ぶことができました。(保健師)
- ・相手の気持ちに寄り添い続けることの大切さを教えていただきました。(保健師)
- ・福祉マインドという考え方(ソーシャルワーカー)

2. 本日のテーマについて感じたこと・印象に残ったこと、日頃から思っていることなど

- ・引きこもりについては大変難しい、あまり接することがないからどのように取り組むべきかも含め答えも出せません。(医師)
- ・相談する場所があるが、改善する道のりは遠い。しかしながら支援する方々が多くいる事はありがたいと感じました。(介護支援専門員)
- ・いろいろな会議体や連携を図ることは重要ですが、その「とりまとめ力」が重要だと思います。(介護支援専門員)
- ・様々な要因があるので、チームで本人さんを支えていきたいと思いました。(保健師)
- ・子ども若者相談センターが実施している支援との連携がどのようになっているのか具体的に聞けると良かった。(保健師)
- ・ひきこもりの方への介入方法など、ヒントになる事があれば聞きたかった。(ソーシャルワーカー)

3. その他の意見

- ・コロナ禍でオンライン参加ができるようになり、よかったのか、会場の熱を感じられる方がチームという意味では、どちらがベストとはいえませんが、夜間の研修では、オンラインはありがたいと思います。(介護支援専門員)
- ・文字での質問を送る方法では、聞きたい事が上手く伝わらなかったです。(ソーシャルワーカー)

アンケートにご協力いただきありがとうございました

次回

【第47回ことう地域チームケア研究会】



日時：令和3年1月21日(木)18:30~20:30

テーマ「お薬の話」 担当団体：彦根薬剤師会

*1月もくすのきセンターから Web(ZOOM 使用)配信と会場参加も可能なハイブリッド形式で行います。
(会場参加は人数制限があります)*事前にメールでお申し込みください。*参加方法など、詳しくはホームページ「在宅医療福祉情報の森」でご案内いたします。



ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で研究会の情報をご覧ください。

「在宅医療福祉情報の森」URL

<http://kusunoki-iyoho-mori-kotou-shiga.or.jp/>



- ・次回開催のご案内・年間予定
- ・過去の開催内容の報告(たより・資料など)
- ・その他、中止の場合のお知らせ など

メーリングリストにも
ぜひご登録ください!



<編集後記>

◆今回の研究会では、様々な立場からひきこもりへの関わり、支援などについて情報提供をいただき、湖東圏域の現状を伝えていただきました。時間の都合で、いつものグループワークでの意見交換ができなかったのですが、たくさんの情報を多職種・多業種の方々と共有することができました。支援者や支援機関がたくさんあり、様々なネットワークづくりが進められていることを知り心強く感じました。発表者の皆様、ありがとうございました。◆「もう少し詳しく知りたかった」との声も多くいただいています。研究会をきっかけに、「教えてほしいな」「協力してほしいな」というとき、お互いの顔が思い浮かぶようになり、協力し合えるつながりが生まれてくるとよいなと思います。

◆さて、今年度に入り、感染症対策のため会場とオンラインのハイブリッド形式でチームケア研究会を開催してまいりました。開催にあたっては多くの方に助けていただきありがとうございました。オンラインを取り入れたことで、新しく参加して下さる方も増えたり、参加しやすくなったと言って下さる方もおられました。一方で、オンラインは参加しづらいというお声や、同じ空間で意見を交わし、熱量を感じられたほうがよいとお声もいただいています。◆試行錯誤しながらですが、このような状況だからこそ、より一層、同職種間、多職種間のつながりがとても大切で、新しい連携の在り方を模索していかなければならないと感じています。◆今回の研究会で、「誰かがつなげてくれるのではなく、それぞれがちよっとずつ自分からつながるように働きかけることが大切」という言葉が心に残りました。◆「何のための連携か」を常に考えながら、地域で働く専門職同士が理解を深め、つながる動機がもてるように、これからも皆さんと共に多職種連携の取組をすすめていきたいと思っています。

どんなときでも、こんなときだからこそ、つながりを深めましょう、感じましょう!

来年もどうぞよろしくお願いいたします。(事務局 A (^ ω ^))



【研究会に関するお問い合わせ：ことう地域チームケア研究会事務局】

- ◆一般社団法人彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)
- ◆彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)